朝倉市観光振興指針に対するパブリックコメントへの対応について

実施期間 : 令和2年2月20日(木)~3月11日(水)

意見提案者数 : 2名

パブリックコメントでいただいたご意見と、ご意見に対する朝倉市観光振興指針での該当箇所及び市の考え方は以下のとおりです。

		トでいたたいたと意見と、と意見に対する朝君市観光振興指針での該当固所及い市の考え方は以下のと 	47 C Y o	
提案意見	該当箇所 (ページ)	ご意見	市の考え方	対応
1		6. 重点プロジェクト 農業を基幹産業とする朝倉市の農産物直売所2箇所に観光の視点からさらなる集客の可能性を発展させる仕組みづくりを提案します。 都市部の人々が安らぎや癒しを求めている自然環境と農村風景は朝倉市そのものです。観光資源の一つとしての(P8)【食・フルーツ】に明記されているように食の素材の宝庫である朝倉市の2つの道の駅と物産館は、農産物の販売所としての機能だけではなく複合的な活用ができるのではないでしょうか。 周辺は作物の生産地です。例えば、体験農業や食育の学習も提供できるでしょう。 また、直売所は他地域からの人口流入で杷木・朝倉に賑わいをもたらす唯一の場所でもあり、外貨を稼ぎ朝倉市の経済に貢献していると言っても過言ではないと思われます。 今後は、この2箇所の物産館と直売所に観光資源としての役目も持たせ、多面的に活用し、より一層の賑わいの拠点として位置付け、ビジョンを明確に描き施設のハードとソフトを再構築することを検討いただきたい。 働き方改革が進み時間に余裕を持った世代が増えてくる将来に求められる地域になることを望みま	このため、今回の指針であらためて重点プロジェクトとしては、両施設について言及せず、「観光	現行通り
1		す。 朝倉地域は「基幹産業は農業である」と言われているように、筑後川中流域にある「筑後平野」の 恩恵を受け、稲作文化の発生に適していて「邪馬台国は朝倉にあった」と言われるほどです。近年で は、企業誘致により、キリンビール工場やブリヂストン工場が来て、雇用の場が出来ました。しか し、グローバル化が進み、その後の企業の誘致はなかなか進まず、農家の後継者不足で、少子高齢化 問題が大きく課題として浮かんで来ています。 日本全体としても、自動車産業等の輸出も厳しい状況となり、海外からの観光客の誘致で活性化を 図ろうとしています。そのような環境の中、朝倉市にとっても「観光」がクローズアップされています。 この為の「朝倉市観光振興指針」ならば、「基幹産業は観光である」と言う位の内容にならなけれ ばならないと考えます。その意味から「観光産業」という視点が重要です。 産業とは、雇用を生み、経済効果がなければなりません。この観点から指針を拝読すると、今まで の観光案内的な発想しか見られません。如何に流入人口を増やすか、そして如何にお金を落として貰うかが必須です。今の朝倉市への観光客は70%以上が福岡県内であり、60才以上が80%で、交通手段はマイカーで、一番の観光地は「道の駅原鶴」と「三連水車の里あさくら」です。1か所で使うお金は500円~1,000円です。そこから観光地を2か所回って貰うと1,500円~3,000円の経済効果が生まれます。原鶴温泉に宿泊して貰えば10,000円以上は使って貰えます。	・観光振興を目指す理由は、観光が観光業に携わる事業者のみに関係するものではなく、その背後にいる事業者までも含めて、雇用を生み出し、地域からの人口流出を防ぐ、一つの産業として成立させることであり、観光産業という視点に立った計画づくりを行っています。ただ、今回策定する指針は、今後4年間に何を重点的に行うかをまとめたもので、大局的な表記は行っていません。	現行通り
2	1	ピーポート甘木は1,200人収容の大ホールと600人収容の中ホールがありますが、九州大会や全国大会を誘致するだけでも食事や宿泊が生まれます(会館使用を無料にするなど特典を与える)又、同じ敷地内に歴史資料館や卑弥呼ロマンの湯があり、有効活用が出来ます(卑弥呼ロマンの湯はお湯の良さから市外からのお客様が増えています)これも観光産業の一つです。	・大会や会議などを誘致するのも、観光業務の一つではありますが、一時期に多数の客を誘致する	現行通り
3	P 40	キリンピール花園での経験ですが、お金を使って貰うのは60才以上のお客様で若い人たちはせいぜいその場での飲食だけです。 確かに観光客の増加には、新しい層として若者やファミリー層が大事かもしれませんが、60才以上へのブラッシュアップを疎かにしてはダメです。	③ターゲットとして、60才以上を疎かにしてはいけない。 ・ある民間会社の調査では、日本人の動向として若い時に旅行をしない人は将来も旅行しない割合が高く、しかも若い世代が余り旅行しなくなってきているという結果が出ています。つまり若い時に旅行する機会を設ける、きっかけ作りが必要です。朝倉市も若い世代に売り込んでいかなければ、将来的に来訪してもらえないことになります。60代以上の方々は、確かに消費額も大きく、確実に取り込んでいたい世代ではありますが、将来の人口減少を見据えた場合、先細りすることは必至で、若い世代への仕掛けをしておかなければ、現状の来訪者数を維持することさえも困難になってくると考えます。	現行通り
4	P 43.44	「あさくら祭り」昨年から農商工連携で始めましたが、「観光産業」を勧める為には、観光協会だけに頼るのではなく、農商工連携が必要不可欠です。その為には、「市長・会頭・組合長」のトップ会談を定期的に開催し、連携を深めることが重要です。そして、商工観光課観光係だけの人員では厳しいと思うので、観光産業課に格上げして行政が商工会議所・商工会やJA筑前あさくらとの連携を図る必要を感じます。	④観光振興係の課への格上げと、JA筑前あさくら・朝倉商工会議所・朝倉市商工会との連携が必要。 ・観光推進体制の充実としては、行政組織の強化よりも、「観光コンシェルジュプロジェクト」 「サイクルタウンプロジェクト」の中で、観光協会等に人材を確保していくという形で進めていきます。またJA筑前あさくら・朝倉商工会議所・朝倉市商工会との連携は、「がんばろう!あさくら祭り」を契機として既に取り組んできており、祭り以外でも連携事業に取り組んでいるところです。重点プロジェクトでは、「新たな名物づくり開発プロジェクト」「コト消費環境整備プロジェクト」の中で、事業に応じた連携を行っていきます。	現行通り
5	P41	又、海外からの観光客の誘致も重要になって来ているので、体制もグローバル化が必要で、九州観光推進機構への働きかけと朝倉市・筑前町・東峰村との朝倉広域連携は福岡県広域課の主導ではなく、朝倉市がリードしなければなりません。(以前は広域朝倉での観光パンフがありました)朝倉市の現状が復旧・復興が先決事項かも知れませんが、毎年目に見えて人口減少が進んでいて、2040年には消滅可能地域に挙げられているので、観光を「観光産業」として捉え、雇用の場を創らなければ歯止めが出来ません。以下、指針に漏れている個所を列挙します。	⑤福岡県・朝倉市・筑前町・東峰村で実施する朝倉広域連携プロジェクト事業は朝倉市がリードすべき。 ・朝倉広域連携プロジェクト事業は福岡県が実施するもので、事業の主目的が地域の振興であり、 観光関連事業はその手段として取り組んでいるものになります。今回の観光指針の中では、市が行	現行通り
6	P 44	1. 筑後川の有効活用 (筑後川流域連携倶楽部との連携)	 筑後川の有効活用 「コト消費環境整備プロジェクト」で、体験メニューの開発などの中で検討していきます。 	現行通り
7	P 44	2. 朝倉市には、3つの高速大分道からのインター(甘木・朝倉・杷木)があり、3つのダム(江川・寺内・小石川)がある。	 ・「コト消貨環境発備プロジェクト」で、体験メニューの開発などの中で検討していきます。 2. 3つのインター、3つのダムの活用 ・「新たな名物づくり開発プロジェクト」で言及しており、この中で検討していきます。 	現行通り
8		3. 朝倉市へのアクセスは自動車では高速大分道、公共機関では甘木鉄道甘木駅か西鉄バスです(海外からの観光客は最初に団体ツアーで来て、次は個人・グループで博多から甘木鉄道で来ています。その後の乗り継ぎが不便です。レンタカーとの取次が甘木鉄道かあさくら観光協会ですべきです。特に、朝倉市長が社長である甘木鉄道は今でも日曜日は窓口が閉鎖されています(人口減少で通勤・通学客は間違いなく減少しているはずです。土日祭日の観光客への対応が出来ていない)	3. 甘木鉄道からのレンタカーなどの移動手段対策 ・「観光コンシェルジュプロジェクト」「サイクルタウンプロジェクト」で検討していきます。	現行通り
9	P 43	4. 朝倉市へのアクセスが示されていない。	4. 朝倉市へのアクセスが示されていない。 ・「観光コンシェルジュプロジェクト」で検討していきます。	現行通り
10	P 44	5. 3つのダムは、今後観光地になり得る。	5. 3つのダムの活用・「新たな名物づくり開発プロジェクト」で言及しており、この中で検討していきます。	現行通り
11	P 43	6. 道の駅原鶴・三連水車の里あさくらでの情報提供の強化。	6. 道の駅原鶴・三連水車の里あさくらでの情報提供の強化 ・「観光コンシェルジュプロジェクト」で検討していきます。	現行通り
12	P 44	7. 体験学習との連携で農家民泊が出来、修学旅行も受け入れている「朝倉グリーンツーリズム協議会」についての掲載が少ない。	7. グリーンツーリズムの記載がない。 ・「コト消費環境整備プロジェクト」で宿泊(民泊含む)と言及しており、この中で検討していき ます。	現行通り
13	P 43	8. 朝倉地域にある観光案内が出来る50か所ある「まちの駅」についての掲載がない。	8. 「まちの駅」の記載がない。 ・「観光コンシェルジュプロジェクト」で、「まちの駅」には限定せずおもてなし環境の整備を検討していきます。	現行通り

提案 意見	該当箇所 (ページ)	ご意見	市の考え方	対応
14	P 44		9. 平塚川添遺跡でキャンピングカーが利用できるようにする。 ・施設管理担当部局との協議が必要ですが、夜間閉鎖する施設であることから当面は実施困難と考えられます。 ただし、別の場所(施設)でのキャンピングカー利用は「コト消費環境整備プロジェクト」で検討していきます。	現行通り
15	_	10. 雨天でも利用出来るグラウンドゴルフ場の建設(九州大会・全国大会が出来る規模)は、宿泊を伴う大会を行えば、平日でも開催されるので宿泊客の増加に繋がるし、建設費用は屋根を付ければ良いので建設費用は安く済む。 ※2月の朝倉市議会の一般質問でも「観光」に関する質問が多く見られました。国内からの流入人口と海外からの観光客との両立で取り組み、朝倉市を訪れるお客様の立場からの目で、朝倉市だけでなく、九州全体・福岡県・朝倉広域との連携を忘れずに民間と一緒に進めなければ効果は見込まれません。	・パークゴルフ場の利田促進に関する協議の中で グラウンドゴルフでの利用も検討理題の一つと	現行通り